

新 研究公正シンポジウム

新たな研究不正行為への対応と 科学の公正性の確保に向けて

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が2014年に改訂されて以降、研究機関において、研究倫理教育など研究不正行為の防止のための取組が一層進められています。他方、同ガイドラインで定められた特定不正行為（捏造、改ざん、盗用）以外にも、「疑わしい研究行為」（QRP：Questionable Research Practice）として、不正行為につながりかねない問題を含むグレーゾーンの研究行為が確認されており、その課題が顕在化してきています。

これらの研究行為は研究分野により慣習が異なることもあり、研究機関や学協会はその取扱いを明確化して所属する研究者に啓発するとともに、研究者は研究活動の様々な場面において自律的に考え行動していく必要があります。こうした状況のもと、研究機関や研究者（とりわけ研究室主宰者）はどのような対応をすべきでしょうか。

本シンポジウムでは、研究公正の推進に関する国内外の取組・事例等を紹介しながら現状の課題を整理し、新たな研究不正行為を含めた今後の対応と研究環境の改善、研究倫理教育の高度化について考えます。

対象者

- ✓ 研究現場における公正な研究活動に関心のある研究者の方
- ✓ 大学・研究機関等で研究公正活動や研究倫理教育を推進・担当する方
- ✓ 研究室を主宰等する研究者の方
- ✓ 研究公正活動に関心のある方

日時

令和6年 10/31 木 13:00 ~ 16:40

プログラム

主催者挨拶	柴田 孝博（国立研究開発法人科学技術振興機構 理事）
来賓挨拶・講演	岡村 勝文（文部科学省 科学技術・学術政策局 研究環境課 研究公正推進室 室長）
講演 1	「学問の「公正さ」をどう伝えるか 一大学における研究公正教育の実践と課題一」 岡林 浩嗣（筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 講師）
講演 2	「特定不正行為以外の問題にどう対応するか 二重投稿、オーサーシップ、査読偽装を中心に」 中村 征樹（大阪大学 全学教育推進機構 教授）
講演 3	「研究不正対応から一歩踏み出して研究の質向上へ なぜメタデータが大切なのか」 飯室 聡（国際医療福祉大学 大学院医学研究科 公衆衛生学専攻 教授）
パネル ディスカッション	【モデレーター】 札野 順（早稲田大学 大学総合研究センター 教授） 話題提供「諸外国における研究公正推進の取り組み」 【パネリスト】 岡村 勝文（文部科学省 科学技術・学術政策局 研究環境課 研究公正推進室 室長） 岡林 浩嗣（筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 講師） 中村 征樹（大阪大学 全学教育推進機構 教授） 飯室 聡（国際医療福祉大学 大学院医学研究科 公衆衛生学専攻 教授）

岡林 浩嗣

中村 征樹

飯室 聡

札野 順

お申込方法

下記URLまたは右の二次元コードからアクセスいただき、お申込みください。

申込締切：10月28日(月)

https://www.jst.go.jp/kousei_p/event/sympo2024/index.html



お問合せ

シンポジウム運営事務局（株式会社ディーワークス） TEL：03-5835-0388（平日10時～17時） E-mail：kousei-sympo2024@d-wks.net

主催：